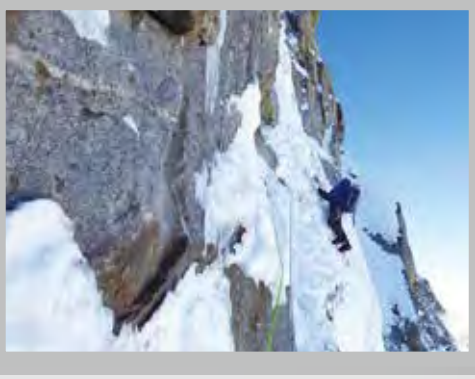
JMA 登山月報 第572号 平成28年11月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

登山月報

雪彦山



アジアユース選手権で日本勢が９つの金メダル…… 1
　ボルダリング、リードで圧勝
東日本大震災復興の架け橋…… 2
　第 71 回国民体育大会希望郷いわて国体山岳競技会
第 96 回 Mountain World …… 5
新連載「山の日」制定記念 ―ふるさとの山を登ろう― …… 6
平成 28 年度登攀技術研修会（長崎）報告 …… 7
第５回関東地区自然保護交流会…… 8
ＵＩＡＡ理事会・総会報告…… 9
平成28年度中高年安全登山指導者講習会（東部地区）報告と感想 … 11
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記…… 13

No.572

アジアユース選手権で日本勢が９つの金メダル
ボルダリング、リードで圧勝

スポーツクライミング・アジアユース選手権が、９月26日（水）～30日（土）イラン・テヘランで開催。11の国と地域の選手がアジアユースチャンピオンの座を賭けて競われました。

日本ユース代表は、ボルダリング、リード種目の男女各３カテゴリー（ジュニア、ユースＡ、ユースＢ）の計10カテゴリーで金メダル９個、銀メダル６個、銅メダル２個を獲得する圧倒的な強さを見せた。

アジアユース選手権は、ボルダリング、リード、スピードの３種目をジュニア（1997年、1998年生まれ）、ユースＡ（1999年、2000年生まれ）、ユースＢ（2001年、2002年生まれ）の年齢別３カテゴリーで競われた。

リードは、常設壁で規模が小さく、４ルートしか同時に作れない状態で効率が悪かった。

日本選手は、予選で比較的登るペースが遅い選手が多い。決勝は、完登＋タイムで決着することが予想されたため、決勝では男女ともスピードを意識させて登らせたことが功を奏した。

他国選手では、中国、タイの選手が昨年より強くなっており、韓国は低迷していたが、アジア全体が少しずつ競技力を上げてきている印象を受けた。

日本代表選手団

ボルダリングは、男子ジュニアとユースＡが他のカテゴリーに比べて難易度が高くなっていた。保持系の課題はほとんどなく、コーディネーション系、バランス系の課題が多かった。確実にきめないといけない課題でアテンプトを重ねる選手が多く、メンタル面の強化が必要と感じた。

他国選手は、リードと同様にさらにレベルが上がっていると感じた。特に男子のユースＡは、世界ユースやアジア選手権にも出場している選手が多いため、他のカテゴリーに比べてレベルが高くなっている。

伊藤ふたば選手

菊地咲希選手

野村真一郎選手

原田海選手

スピードは、女子４名（戸田萌希、高田こころ、伊藤ふたば、菊地咲希）と唯一男子で参加した小西桂が果敢にチャレンジしたものの、残念ながら全員予選敗退となった。

各カテゴリーの結果は、以下のとおり。

男子ボルダリング			
	１　位	２　位	３　位
ジュニア	野村真一郎	亀山　凌平	
ユースＡ	原田　　海		
ユースＢ	霸本　直生	小西　　桂	
男子リード			
	１　位	２　位	３　位
ジュニア	野村真一郎		
ユースＡ		原田　　海	
ユースＢ	小西　　桂	霸本　直生	
女子ボルダリング			
	１　位	２　位	３　位
ユースＡ	戸田　萌希	高田こころ	
ユースＢ	伊藤ふたば		菊地　咲希
女子リード			
	１　位	２　位	３　位
ユースＡ	戸田　萌希	高田こころ	
ユースＢ	伊藤ふたば		菊地　咲希

戸田萌希選手

東日本大震災復興の架け橋
第71回国民体育大会希望郷いわて国体山岳競技会

――広げよう　感動。伝えよう　感謝。――

東日本大震災や先般の台風10号並びに４月に発生しました熊本地震等々で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げるとともに、一度はとん挫の危機にあった、国民体育大会を岩手県民の皆様、岩手県山岳協会、盛岡市の皆様のご尽力によって、第71回希望郷いわて国体として開催されたことに、日本山岳協会として心より感謝申し上げます。

さて東日本大震災復興の架け橋「第71回国民体育大会希望郷いわて国体山岳競技会」―広げよう感動。伝えよう感謝―が、秋空の下10月７日～９日の３日間、競技初日には高円宮憲仁親王妃久子殿下のご観戦を賜ったのをはじめ、スポーツ庁など多くの皆様の視察や、激励をいただきました。感謝申し上げます。

大会を通して、延約7400人（定時調べ）の来場者があり、マスコミ関係者、視察員は昨年を上回る結果となりました。そのため、昨年同様にマスコミ・報道関係者への、アイソレーションゾーンを含む競技エリアでのカメラ撮影を認め、競技の公開性を高めるとともに、国体後催３岳連･協会へも「視察員腕章」を配布し、競技エリアへの立入りを人数的制約はあるものの公開しました。

この度の競技会では、多くの中学生の出場がありました。少年男子で、８名、少年女子で、10名が出場し、中学生のみのチームが少年女子で１チームあり、みごとにボルダリング種目において８位入賞を果たしました。将来が楽しみなチームです。

リード競技は、屋外常設施設での競技で、大会２日目の成年男子予選は、一日中雨の中で実施をいたしました。競技開始から終了までの予報は、降水確率100％、降水量３～９㍉、湿度86～90％、風速南風３～６m、気温10．６～16度℃と、競技開始の可否の厳しい選択の中で、競技を実施することを決定しました。このため、選手、監督をはじめ競技会関係者の皆様には、一日中、雨と寒さを強いる結果となりましたが、地元の皆様の「アスリートファースト」に立ったご対応（アイソレーションでの暖房やコールゾーンへのストーブ配置など）により、成績を出すことができたこと感謝申し上げます。

競技の内容や判定への抗議は３日間で３件ありました。高度判定、ハンガー仕様に関するものでした。

その中で、競技終了後に監督、選手以外の当該チーム関係者からの再度の抗議があった旨、審判団より報

告がありました。競技規則の熟知を強く求めます。

成年女子で、予選、決勝を、小林由佳選手、野口啓代選手（茨城県）が完登し種目完全優勝を果たしました。また、大田理裟選手（山口県）も予選、決勝での完登を果たし、長崎国体から３年連続の決勝での完登を成遂げました。廣重幸紀選手（福井県）が予選で完登しました。おめでとうございます。

ボルダリング競技での判定の抗議は３日間で20件でした。内容は、アテンプトの判定に関するものでした。テクニカルインシデントが２件発生（ホールドの緩み、タイマーの不具合）しましたが、競技には大きな支障にはなりませんでした。成年男子予選で、終了通告前の退出があり、注意とした。

少年男子で予選、決勝で完登が原田海選手（大阪府）、少年女子決勝で一撃完登が大河内芹香選手（長崎県）、戸田萌希選手（山梨県）、完登が高田こころ選手（鳥取県）、曽我綾乃選手（埼玉県）、成年男子では、世界選手権の覇者、楢崎智亜選手（栃木県）が予選一撃完登、決勝も完登し、チームは３位に入賞しました。緒方良行選手（福岡県）、一宮大介選手（兵庫県）も決勝で完登し、アテンプト数によるチーム成績となった。

競技を通して、ＩＤカード、ゼッケンの忘れでイエローカードが３枚出されました。基本的な事柄ですので、監督はしっかり指導をお願いいたします。

男女総合成績（天皇杯）第１位は埼玉県で、全種別からの得点「135点」を出し二連覇の実力を発揮しました。女子総合成績（皇后杯）は昨年度と同じ対決となり、長崎県が、完全優勝を狙う埼玉県を抑えての堂々の二連覇を果たしました。おめでとうございます。

開催県である岩手県は、選手強化と国体運営を担いながらも初日の少年男子リード種目で１位となり、最終日のリード種目においても２位となるなど会場は大いに盛り上がりました。成年男子リード種目も６位に入賞しました。その結果、天皇杯では６位に入賞されました。さらなるご活躍をご期待いたします。

野口啓代、小林由佳選手の完登

高円宮憲仁親王妃久子殿下の観戦

リード、ボルダリングともに決勝に残ったチームは多く、成年男子で５チーム、成年女子で６チーム、少年男子で７チーム、少年女子６チームでした。

種目得点を獲得したチーム数は、天皇杯25都道府県、皇后杯18都道府県となりました。

国民体育大会は、47都道府県での予選会、９ブロック大会を得て出場チームが決定される本協会唯一の競技会です。今、世界の舞台で活躍する選手や指導者はこの国体競技とともに歩んできました。

そのためにも、都道府県予選会報告、ブロック大会開催岳連はブロック大会報告をコンプライアンスやガバナンスの遵守から、それぞれ大会終了後10日以内の提出や、開催要項等の一部ご送付をお願いします。

本協会は、競技スポーツのみならず生涯スポーツとしての山岳競技＝スポーツクライミングをさらに発展させてまいります。より一層のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、競技会の成功にご尽力いただきました、盛岡市国体実行委員会、競技運営を担っていただきました岩手県山岳協会の皆様、さらには大会に参加された選手、監督、審判団や競技運営役員等々の皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

（競技運営委員長　西原斗司男）

【総合成績】

天皇杯（男女総合）		皇后杯（女子総合）	
1　位	埼玉県	1　位	長崎県
2　位	茨城県	2　位	埼玉県
3　位	長崎県	3　位	茨城県
4　位	千葉県	3　位	鳥取県
5　位	大阪府	5　位	山口県
6　位	岩手県	6　位	宮城県
6　位	鳥取県	6　位	千葉県
6　位	東京都	6　位	大阪府

第96回 Mountain World

29年ぶりに復活したゴールデンデュオ

池田常道

1987年のこと、英国のヴィクター・サンダーズとミック・ファウラーはカラコルムのスパンティーク（7028ｍ）北西ピラーをアルパインスタイルで一撃した。このピラーはゴールデン・ピラーとも呼ばれるが、これは、1892年にスパンティークを北側から測量したコンウェイがゴールデン・パリと名付けたことに由来する。南東側のチョゴルンマ氷河に容易な尾根が張り出しているこの山は比較的早期に登られたが、北西面はまったく様相を異にする。ヒスパー氷河の支流バルプー氷河に面してそびえるピラーは、夕日を浴びて黄金色に輝く圧倒的な姿をナガールの村から望むことができるが、それは、高さ2100ｍに及ぶピラーの上半部1100ｍでしかない。

花崗岩とちがってクラックが乏しく、緻密でプロテクションの取りにくい大理石のピラーを、ふたりは７日間で完登した。その２年前に、ポーランドのヴォイチェフ・クルティカとオーストリアのロベルト・シャウアーが登ったガッシャブルムⅣ峰西壁と並んで、当時カラコルムで行なわれた最高水準の登攀だった。この両者は、偶然にも大理石を主体に構成された壁である。ゴールデン・ピラーは2000年にマルコ・プレゼリら４人の国際チームが第２登。2009年にはギリギリボーイズ隊の一村文隆、佐藤裕介、天野和明が第３登を果たしたことは記憶に新しい。

サンダーズとファウラーは1970年代から80年代にかけて、冬季のベン・ネヴィスを初めとする多くの登攀を共にしたが、別々のペアで挑んだウルタール・サール挑戦（1991年）を最後に異なる道を歩んだ。サンダーズはシャモニを本拠とするプロガイドとなり、ファウラーは税務署勤めを続けながら年１回の遠征登攀を、さまざまなパートナーと行ってきた。

そして去る９月、ふたりはスパンティークから数えてじつに29年ぶりにゴールデンデュオを復活、インド・ヒマラヤに出かけて初登攀に成功した。目標にしたのは、スピティのパンギ谷にあるセルサンク・ピーク（シブ・シャンカール、約6100ｍ）。ふたりは、最も傾斜の強い北壁の顕著なバットレスに取付き、中間部から先では稜の右手をたどって５日間で頂上に抜けた。下降は別ルートからさらに３日間を要し、８日目にしてＢＣに帰着した。ファウラーが現地から送ってきた第一報には「セルサンク成功。ノース・バットレスを５日で登り、ＢＣから往復８日間。まったく素晴らしい遠征だった」とある。登攀の詳細は現在執筆中で、いましばらく時間が必要とのことだ。

サンダーズとのコンビ復活については、こう語る。「こんなに長いブランクを経て再びロープを結び合うのは印象ぶかいことだった。来年もふたりでどこかへ行こうと決めている」。ただし、行先は未定だそうだ。数年前に、キシュトワールのハグシュ北壁を狙うことを公表して、マルコ・プレゼリにまんまとさらわれてしまったことを気にかけているのだろう。

＊

ところでこの山は、2007年にクリス・ボニントンの一行が北西稜から登頂を試みて5500ｍまで達していた。翌年には、坂本昌士隊長らの労山マスターズ隊が南西稜をたどり、３隊員と高所ポーター３名が頂上ドームの基部6011ｍまで迫った。その高度はＧＰＳ計測で得られたものだという。この隊は、聖なる頂に立てないというポーターの言にしたがって最後の50ｍかそこらを登らなかったと聞くが、ファウラーが現地で調べたところ、そんな慣習はないということだった。またサンダーズは、「2008年の日本隊が初登頂したと聞くが、ＷＥＢで見るその写真はとても頂上とは思えない」と、自分たちの頂上ショットを送ってきた。

労山マスターズ隊はＩＭＦに事実を報告したはずだが、英文ではセルサンク6011ｍに初登頂とされて国際的に流通してしまっている。未踏峰であるからには、なによりも正確な情報が欠かせないといえよう。

セルサンク北壁の４日目、リードするファウラー
Mick Fowler＝提供

新連載

「山の日」制定記念
―ふるさとの山を登ろう―
兵庫県・六甲山、雪彦山のこと

兵庫県は、南は瀬戸内海、北は日本海に接している。最高峰は北部の但馬にある氷ノ山（1509．6ｍ）で、標高千㍍を越える山は、中国山地の東部に位置する氷ノ山周辺の但馬、播但地域の山と、県中部の段ヶ峰、千ヶ峰など播磨中北部の山がある。今回は標高千㍍に満たないが海岸線に近く、しかも、大都市神戸などに近接し、地域に融合している「六甲山」と日本三彦山として知られる岩峰鋭い「雪彦山」を紹介したい。

「六甲山」の紹介

神戸市内の西端から、東隣りの芦屋、西宮、宝塚へと続く市街地のすぐ背後に直線距離にして東西約30キロ、南北７キロ余りにわたって、細長く屏風のように連なる山系を「六甲山」と呼んでいる。一等三角点のある六甲山の最高峰は931．３ｍ。数百メートルから９百メートル余りの低山山系ではあるが、気候や地質など自然環境に恵まれており、加えて、官民一体となった自然環境保全の取り組みや植樹活動によって、今では瀬戸内海側では珍しい貴重なブナ林をはじめ、約１,700種とも言われる、豊かな植生を育む山地となっている。（昭和31年瀬戸内海国立公園の「六甲地域」に指定されている。）この六甲山は市街地に直結している利便さも加わり、自然と人が容易に融合できるという魅力があるようで、明治、大正の時代に入って、山上の交通路や山地の歩道の整備、荒廃した山地の砂防工事や植林などが進められていった。その原動力となった人たちが集い、誘い合って、散歩がてらの山歩き―ハイキングの風習が、後に「早朝登山」「毎日登山」として神戸市民に広まっていくことになったともいわれている。

「雪彦山」の紹介

姫路市最北部にある雪彦山は、新潟県の弥彦山、福岡県の英彦山とともに日本三彦山の一つで洞ヶ岳、鉾立山、三辻山の三山の総称である。中でも賀野神社所有の洞ガ岳は、大天井、不行岳、三峰、地蔵岳の岩峰から構成され、玄常上人以来の修験者の道場して開かれた。一般的には麓の坂根部落にある、賀野神社鳥居から見上げる洞ヶ岳を雪彦山（標高811ｍ）と呼んでいる。賀野神社は播磨地方唯一の牛馬の神社で、古来周辺地域より多くの信仰を集め、過っては一の鳥居が瀬戸内海の姫路市妻鹿の沖中にあり、書写山の南、辻井村に二の鳥居、地元山之内小学校の付近に三の鳥居があった。今も二の鳥居、三の鳥居の礎石が残っていると聞く。坂根部落に現存する鳥居は三の鳥居を移築した物である。一般登山道は、鳥居より150ｍほど進んだところよりいきなり急峻な登山みちを尾根めがけて登る。途中修行堂跡、出雲岩の雨乞いの祠、鎖場など経て頂上に至る。兵庫県山岳連盟編纂の、ふるさと兵庫50山、100山に四季折々の見どころを含め簡明に紹介されており是非一読をお勧めする。又、岩登りの場として戦前より開拓が始められ、当初は岩の弱点を突き各岩峰の頂に立った。故藤木九三氏の詩に「不行岳　人みなの　不行と呼べば　ことさらに　挑みしわれぞ　この頂に」当時のクライミングが偲ばれる。その後、クライミング技術の進歩、思想の変化により、弱点を突いたハーケンルートからボルト連打の人口登攀ルートが開拓された。近年は、フリークライミング人気の高まりもあり、ルート開拓が困難な岩壁においても道具の進歩により、クライミングボード紛いのフリークライミングルートがいくつも開拓されている。県外はもとより近畿以外のツアー登山者、クライマーが多く訪れる人気の高い山である。毎年５月には山開きが開催され、各種団体が参加し安全登山を祈願する。四季折々の美しさを見せてくれる雪彦山への登山をお待ちしております。

雪彦山

2017年新春懇談会のご案内

日　時　2017年１月14日（土）13時～15時
会　場　アルカディア市ヶ谷「富士」
東京都千代田区九段北４-２-25
http://www.arcadia-jp.org
☎ 03-3261-9921
会　費　１万円

平成28年度登攀技術研修会（長崎）報告

上級指導員養成講習会（中央開催）が、10月１日（土）～２日（日）、長崎県大村市のシーハットおおむらに於いて開催された。日山協の指導方針に沿った教育・技術的な指導法が学べ、地元開催と云う事でもあり参加した。今回の開催は中央から日山協の指導講師５名、受講者（登攀技術研修会５名、Ａ級主任検定員養成講習会３名、上級指導員養成講習会１名）計９名 の参加者であった。

１日目は机上講習にて指導・遭対合同技術会議の報告書がされ、今後指導者として指導する上での明確な指標であると感じた。午後からは、実技講習の為にクライミングウォールへと移る。上級指導員養成とＡ級主任検定員養成講習者は合同で受講し、実技講習の一連のデモンストレーション・システム全体の体系について詳しく解説があった。

ディバイスの仮固定から自己脱出を図り、墜落者を下ろす為に別の支点構築、その後墜落者を下ろすまでや、墜落者になっての自己脱出などもの一連の実技の演習であった。

今回はマンツーマンで、実技の体制・実習内容が同時進行で組まれ合理的で理解しやすく指導する立場でこの様な発想が重要な事と思えた。

指導講師からの、「安全を第一に考え確かな方法で行うとすれば、まず何を先にすべきか、自から手順が出てきます。また無駄な動きもしなくなりますと指導を頂いき、確保技術がいかに大事かを学び一日目は終了した。

２日目は上級指導員・Ａ級主任検定員の検定が行われた。

今回の講習と検定に至る内容は、いかに「安全で確かな技術を学ぶ」かの一言でした。

今私の上級指導員養成講習は、スタートラインを一歩踏み出したところです。これから機会ある毎に研修・講習に参加して、安全で確かな技術の知識を求めて行きたいと思います。

（長崎県山岳連盟　渡邉利博）

登攀技術研修会が長崎で行われ、日本山岳協会からは瀧本、蛭田、切嶋、堤、本郷、長崎県山岳連盟からはスタッフとして５名、登攀技術研修会５名、Ａ級主任検定養成３名、上級指導員養成１名、の総勢19名で行われた。今年の九州地方は熊本地震や９月の大雨で多くの被害が出て参加予定者の中にも急遽復旧作業などに出る方がいて、４名のキャンセルもあった。被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

基礎理論講習は、確保理論、制動確保、登山とスポーツクライミング、指導者制度について、登山医学、遭難対策を行い、その中で８月の指導遭対合同研修会での報告も行いました。指導は検定や講習会を分かりやすくする為の指導内容に対し、遭対は現場の状況（要救助者の位置・装備内容・その他、諸々）に応じての内容になっている事、いろいろな講習会に出た方が登攀技術で混乱しないように指導する事を説明した。

また、“遭難対策”では、ヒコトコ（位置情報発信機）の講義を行い、ビーコンとの違い（軽量・電波範囲が広い・電池寿命が長いなど）や使い分けなどを講習し、捜索方法の環境や機能もどんどん改良されている事や、このヒトココは日山協でも貸出をしている事を付け加えました。今回の研修会では長崎岳連の方に、空港の送り迎え、懇親会の手配などいろいろご配慮いただきありがとうございました。

（指導委員会　本郷利夫）

快適なロッジに泊まりながら、タスマニア島を北から南へと大縦断

タスマニア島
オーバーランド・トラック 10日間

発着地 東京（羽田）　旅行代金 ¥698,000
出発日 1/20（金）・2/3（金）・3/3（金）
※燃油サーチャージは、旅行代金に含まれています。

旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

第5回関東地区自然保護交流会

10月１日（土）～２日（日）に１泊２日で第５回自然保護交流会を千葉県南房総市岩井海岸にて千葉県山岳連盟の主管のもと開催した。この交流会は関東地区の日山協加盟団体の自然保護活動の担当者の情報交流とともに開催地の状況を把握することを狙いとしている。茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨のほか長野からも参加を得て、第１日目40名、２日目44名が出席した。第１日目には全員集会、第２日目には南房総の霊峰の鋸山（のこぎりやま）へエキスカーションを行った。

第１日目は午後２時から民宿「治郎吉」のミーティングルームで、開会式・参加者自己紹介・各団体活動発表が夕刻まで行われた。開会式では、松隈委員長から第５回目の交流会を迎え多くの参加を得たことに感謝を述べ、山岳自然保護の活動の更なる活性化に向け、互いを知り、切磋琢磨の機会となることを期待すると主催の挨拶をした。また、主管の千葉県山岳連盟の岩崎喜司理事長から歓迎挨拶に加え、清澄山系のヤマヒル、イノシシやキョンの農林業被害、登山道の荒廃などを例に、千葉県の自然環境の状況が説明された。また、坂口三郎顧問から、東京五輪に向けた注目が高まるなか、山岳自然保護を一層大切に活動することを怠ってはならないとし、鋸山山系を会場に行われた昭和48年の千葉国体に審判長で訪れた当時のことを引き合いに出し、その後の時の流れで山岳環境の疲弊が進まぬように自然保護の活動を期待するとした。

引き続いて、参加者の夫々から自己紹介を兼ねた発言が行われ、翌日から入山予定となる「鋸山」の植生について、千葉県山岳連盟・濱田伸自然保護委員長を講師に１時間ほどのレクチャーが行われた。

■濱田レクチャーの概要

鋸山は石材（房州石）の産地として、江戸時代末から明治時代にかけて産業化が進み，東京，横浜などを中心に首都圏で多量に使用され、昭和60年頃まで切り出しが行われた。鋸山一帯は南房総の北西海岸沿いに約600～400万年前の後期に出来た岩盤が露出しており、もともと海底にあったものが長いあいだ土地の変動や隆起し、表層の泥岩や砂岩が風雨などで流出し、中心にあった硬い凝灰岩が残ったとされる。一帯は南房総国定公園で、鋸山稜線部は第一種特別地域となっている。一帯に咲く花々をスライドで紹介した後、盗掘を逃れて、人手の届かない石切りの崖地で生育する希少植物が僅かに残ったとした。

その後、前月に開催した自然保護委委員総会での資料を参考に各団体の活動報告と討議が熱心に行われた。茨城からは、筑波山などでの年２回のクリーン活動を主軸に環境活動の取り組み、栃木からは栃木百名山登山を通しての啓発活動、群馬からは川場鉱山などの環境美化活動、埼玉からは日山協出前講座や県職を招聘しての学習会、東京都からは御前山環境活動を通してのトイレ意識調査、神奈川からは丹沢での植樹や森林ボランティア通しての環境活動、山梨から南アルプスでの山岳レンジャー活動、長野からはライチョウサポータへの参加を通しての生態調査を、それぞれ報告した。夕刻の懇親会では千葉県山岳連盟関口薫会長の発声で乾杯が行われ、それぞれが打ち解けたあったなか歓談が進んだ。

第２日目は関口会長はじめ千葉県山岳連盟の案内にて鋸山登山となった。金谷海浜公園を出発し、関東ふれあいの道コース、沢コースの２コース、ロープウェイを使っての日本寺班３班に分かれて、鋸山登山となった。前日のレクチャーを思い出しながら、それぞれ４時間ほどの行程を楽しみ、13時頃に金谷海浜公園に帰着し、最終メンバー確認をし、三々五々解散となった。

（自然保護委員長　松隈　豊）

日本山岳会百十周年記念出版
改訂 新日本山岳誌
日本山岳会編　この10年間で「動いた」日本の4000山を、会員の脚で再調査して改訂した最新の山岳大事典。18000円
インド・ヒマラヤ 日本山岳会東海支部編
この地域の日本初の最新登山記録集成。概説、概念図、写真、登山記録、登山史、文献を集約した必携の書。6000円
ヒマラヤの東 山岳地図帳
中村保　地球最後の未踏峰の宝庫（中国深奥部）を多数の写真・地図で明らかにした世界初の詳細な山岳地図帳。10000円
606-8161京都市左京区一乗寺木ノ本町15
www.nakanishiya.co.jp/
ナカニシヤ出版
TEL.075-723-0111
FAX.075-723-0095
〔価格は本体価格〕

UIAA理事会・総会報告

イタリアのブレッセノーネで開催された。北部であり、殆ど南チロルであり、ドイツ語を話す人の方が多い。主管はイタリアの南チロル山岳協会（ドイツ語名 Alpen Verein Sudtirol 略称ＡＶＳ）であり、イタリア山岳会ではない。

ＵＩＡＡでは総会に先立って理事会も開催されている。本稿では理事会と総会を合わせて報告する。

日　程：2016年10月12日（水）～15日（土）

場　所：イタリア・ブレッセノーネ
ＩＭＳ（International Mountain Summit）会議室

日本からの参加者：八木原会長、小野寺常務理事

日　程：

12日午後：非正規理事会、13日：正規理事会、15日：総会であったが、同じ議論もあり、報告の都合上、一度に報告する。また、14日はメスナー山岳博物館の見学があり、後述する。

概　要：

今回は開発途上国の団体の加盟が目立った。また南アフリカ山岳連盟（創立125年）により、アフリカ大陸にある国の山岳連盟の様子が少し明らかになった。執行部（ＥＢ）の一員に中国が入った。これは2022年の冬季五輪にアイスクライミングを種目化することを意識している。理事会（ＭＣ）メンバーも一部入れ替わりネパールが選出された。今後４年間の方針が示された。今までと違う点は責任委員会を明確にしたことである。

ラインホルト・メスナーが名誉会員に選出された。

１．メンバーシップ

新しい会員について承認があった。以下の通りである。

①Afghanistan Climbing & Mountaineering Federation アフガニスタンクライミング山岳連盟
②Mountaineering & Sport Climbing Federation of the Republic of Kazakhstan カザフスタン共和国山岳スポーツクライミング連盟
③Albanian Mountaineering federation アルバニア山岳連盟
④Federation Nacional de Andinismo de Guatemara グァテマラ国立山岳連盟
⑤Federation Royale Marocaine de Ski et Montagnes モロッコ王国山岳スキー連盟

以上の他コスタリカも申請したが保留となった。既

メスナーが全会一致で名誉会員に

にそれなりの国は加盟しており、これからの加盟はどうしても小国になるのはやむを得ない。また、会費を支払えない国、例えばブラジルは共同基金（実際は補助）で支払いをＵＩＡＡに借りた形になっている。

２．南アフリカのレポート

南アでは事前にレポートを本部に送っていた。内容的には、ＧＤＰが低いという理由からではなく、クライマーがアフリカ諸国には少ないので分担金が支払えずＵＩＡＡに参加出来ない国がある、ということであった。以前はＧＤＰが低くて支払えないと言っていたが、理由を変更した。ウガンダ、ケニヤ、スーダンなど７つの国に山岳連盟があり、各々クライマーは200名程度とのこと。南アはそれよりは多いと言ってもせいぜい4200人程度らしい。ただ、ＥＢは会費構造を変更し、小国を入会しやすくするつもりはないらしい。共同基金をうまく活用しいほしいとのことであった。現在の会費制度は大国に有利になっているが、100万人の会員を有する最大規模のドイツは、やはり今より多く支払いたくない、子供達にまで会費負担させる気か、と言っている。

３．執行部（ＥＢ）について

本年は４年に１度の大掛かりな選挙の年であったが、会長のFritsはじめ、４人は再選された。任期満了まで間がある２人はそのままで、さらに中国の王勇峰副会長がメンバーの１人となった。選挙前からFritsがアジアから１名入れたいと投票依頼してきた。実際には前述のように2022年を意識してのことである。定款ではＥＢメンバーは６～７人となっているので数的には問題はない。

４．理事会（MC）メンバーについて

ＥＢ同様４年に１度の大掛かりな選挙が行われた。目立ったのは北欧、特にノルウェーの立候補であっ

た。ＥＢにもＭＣにも立候補し、どちらも落選したが、発言力は目立った。（後述、メスナー博物館）。アジアでは従来の韓国のChristine、日本の八木原会長に加え、ネパールのZimbaがメンバーになった。

５．今後４年間の活動方針について

４年ごとに新たな方針が出される。今までは、例えばＵＩＡＡトレーニングスタンダードの拡大化、スポンサー獲得などの個々の目標であったが、今回は全ての委員会に目標を持たせ、さらにバックアップ部門をも明示したことである。ＳＷＯＴ分析（Strength—Weakness—Opportunity—Threats--analysis）という分析手法であり、組織や個人が目標達成に向けて行動するうえで支援または障害となる要因を分析するものである。詳細は省くが、必要なアクションがあり、それをどの委員会が責任を持って担当するか、誰がそれをサポートするか、というものである。ＥＢやＭＣも例外ではない。縦の柱として主に３つのカテゴリーを持っている。スポーツ部門、安全部門、sustainability（日本語に訳しにくい言葉であるが、持続可能性あるいは環境保護に配慮した企業活動）である。それらに対し、例えばスポーツ部門は、複数の横の活動項目に対し、アイスクライミング委員会、登山委員会などが責任を負う、安全部門について同様には安全委員会、登山委員会などが責任を負う、という具合にマトリックス構造になる。これら方針案については、理事会においてドイツが真っ向から反対していた。こんな難しい、多くの事柄を総会にポンと出して数分で賛否を問うつもりか、などと。その後、別の場所でFrits会長とドイツが話し合い、一応の修正案提出された。その時はそれでよかったが、ドイツは総会でも反対していた。どうも反対のための反対らしい。

６．名誉会員

今年はラインホルト・メスナーが名誉会員に全会一致で推薦された。発言はさすがに重みがあった。アルピニズムとは何か、ということを熱心に発言していた。アルピニズムとは行くべきか、止めるべきか、勇気を持つこと、アルピニズムとは自分の行動において責任を持つこと、自分のアルピニズムを発見すべき、アイスクライミングはアルピニズムの１つの活動、など熱心に発言していた。伝統的アルピニズム、アルピニズムとは何か、アドベンチャー登山における最後の可能性についても言及していた。

別の話になるが、実は総会の開始直後には今回出席の名誉会員に感謝状が贈られた。スペインのジョルディ・ポンさん、フランスのエッカートさん、ネパールのアンツェリンさんの３人である。特に前２者は年齢が75歳前後であり、今迄も総会には必ず出席していたが、もうそろそろお出で頂かなくてもいいですよ、と意味が入っていると思われる。現にエッカートさんは必要ない時でも（？）発言し、Fritsからはもういい、とも言われていた。

７．アイスクライミング委員会

ＵＩＡＡのＥＢが力説している割には、委員会報告においては、ＮＦのサポートがない、資金不足である、選手とトレーナーの関係が希薄である、スポーツクライミングにばかり目が行っているなどのネガティブな説明があった。

８．ラインホルト・メスナー博物館見学

理事会と総会の中日はメスナーの山岳博物館の見学であった。メスナーの博物館は１つだけではないが、我々が見学に訪れたのは小高い丘（山）のお城を改造したものである。生憎の雨で周りは殆ど見えなかった。晴れていればドロミテの山々が見えるそうである。内部には食堂、ショップなどもある。バス２，３台で行ったのであるが、我々が着いたときは既にメスナーは演説していた。

間をおいてノルウェーの方が、自国の登山事情と共に登山倫理についても、パワポで講演した。何処も同じで景観もさることながら、自然を傷つけないという考え方、見方を披露していた。これには登山委員会の倫理担当であるダグスコットも発言したりしていた。

９．次回の総会開催について

2017年度の総会はイランのテヘランにほぼ決まっていた。ところが開催中に、アメリカのＥＳＴＡ（ビザの一種）がパスポートに貼っているものは入国できないケースがある、ということをヨーロッパ勢が言い出した。事前ネゴの段階で、実際日本でも９月末のアジアユースに出発する前は同様の事が言われていたが結果的には問題なく入国出来ており、そのことを伝えたが、それは稀なケースである、と言われてしまった。結局総会会場でイラン開催は保留になった。（後日ＩＦＳＣのオフィスでも同様の話があり、やはりアジアユースで入国出来なかったスタッフがいたらしい）。

2018年度開催はモンゴルのウランバートルが賛成多数で採択された。　（小野寺　斉）

平成28年度中高年安全登山指導者講習会（東部地区）　報告と感想

平成27年中の全国の山岳遭難は発生件数2508件、遭難者3043人うち死亡、行方不明者335人、負傷者は1151人であり、統計の残る昭和36年以降最も高くなっている。その大半が中高年登山者であり、遭難する原因の第一位は道迷いで、約40％を占めている。（警察庁の統計より）

昨今の登山ブームにあって中高年登山指導者の養成と、安全な登山の普及を図るというこの講習会（東部地区）は９月23日（金）から25日（日）、新潟地区で開催された。受講者は15都県48名であった（男性39名、女性９名）

会場は新潟市西区、メイワサンピアと現地講習会は角田山（481メートル）である。

角田山は日本海と越後平野に挟まれた弥彦山塊の北端に位置する火山で子供や年配者からも親しまれ、おそらく登山者は隣の弥彦山に次いで県内で２番目に多いと思われる。特に春先の花の時期には大群落となるカタクリや可憐な雪割草を求めて大勢の登山者がやってくる。バスツアーも盛況である、したがって登山中の転倒や発病など高齢登山者特有の事故も多く、また花の時期以外では里山ゆえの沢山ある踏み跡に入りこんで道に迷うケースも見られる。この角田山で当講習会を開催するという事は県外の参加者だけでなく主管する我々新潟県山岳協会の指導者としてもとても役に立つ講習会であるに違いない。

開講式では国立登山研修所宮﨑豊所長から国立登山研修所と日山協の共催で中高年登山者の体力などに応じ、知識、技能等について習得すると共に、研究討論を行い中高年登山指導者の養成と、安全な登山の普及を図ることを目的に平成３年から実施している事が説明され、事故防止のために山岳協会や山岳会の活躍を期待された。日本山岳協会の八木原圀明会長は、山の日が制定されて益々登山者が多くなり、遭難者も増える。未組織登山者が99％の中にあっても我々が、手をこまねいていることは出来ない。一件でも事故を減らす努力をしてほしいと説かれた。また、新潟県山岳協会の阿部信一会長からは歓迎の挨拶と、つい先日飯豊連峰のアプローチで起きたベテラン登山者が疲労で思考力を失い道迷いに至った事例が紹介され、講義に入った。

この講義の報告は「報告書」という形で冊子にまとめられるので、以下は筆者の感想を含めたものになっている。

講義Ⅰ　「道迷い防止のためのナビゲーション技術」（講師・村越真氏）村越先生の講義は、まず道迷いから様々なアクシデントや負の連鎖が起こることが説明された。疲労、転倒、転落、滑落、熱中症、低体温症などを呼び込んでしまう。道迷い件数は男性はどの年齢も同じくらいなのに対し、女性は40～50歳台が統計から見た限り少ないという。この要因については先生もわからないという事であった。道迷いは低山に多く起きていることも分かった。次に等高線やコンパスの基本的なことを一通り説明されたが、地形上に記す尾根線・水線については、理解できていない受講者も見受けられた。最後にごく狭い範囲の地形図にポイント地点が書いてあった。そのポイントが尾根上にあるのか谷の中にあるのかというクイズが出された。８問全問正解するとプレゼントがもらえるという事で喜んだ方が大勢いたが、誰ももらえなかった。

講義Ⅱ　「中高年登山の課題について」（講師・北村憲彦氏）北村先生からは遭難原因の分析と課題が指摘された。特に体力不足が遭難原因の大きなポイントを占めるという事だ。体力がないから日没までに下山できない。体力がないから道に迷ったときに解ってはいても確実な地点まで登り返すことができない。体力、脚力不足で特に下山がままならない人をよく見かける。ちょっとすべりやすい径では完全に足が止まってしまう。体力があれば転倒、転滑落などはぐっと減らせると思う。更に単独登山と複数名登山ではリスクが何倍にもなることを再認識すると共に登山客から登山者になれ！　と説かれておられた。それから緊急事態発生の時の通報は「山岳遭難です」と、まず告げることが重要と学んだ。

研究協議風景

講義Ⅲ　「越後の山の昔の技」（講師・平田大六氏）平田大六先生の話はいつも面白い。職業は村長。今回は「越後の山旅」の著者藤島玄先生から授かった山の技術、考え方などを聞かせていただいた。現在の発達した登山装備を身にまとう我々だが藤島玄先生の「冬山覚え書き」の濡れに対する意識がすごい。また平田先生愛用の山道具も回覧され、古いがピカピカの鉈が会場の皆さんの目をひいていた。そこには名前が「Ｄ６」（でーろく）と彫ってあった。

講義Ⅳ　「新潟県における山岳遭難事故の実態」（講師　新潟県警　玉木大二郎氏）　玉木氏は新潟県山岳協会の、特に遭難対策につきましては20年来の長きにわたって指導を仰がせていただいている。今回のテーマは道迷い防止であるのでそれに関連した２件の事例を報告された。そのうちの一つはキノコ採りを救出した際の自らのリングワンダリングの体験談であった。これはいくら経験豊富でも、山に強くても、記憶と勘で歩いている以上は誰でもが陥る可能性を示唆するものである。

２日目は、村越先生の指導による角田山の五ヶ峠コースを登り、灯台コースを下山する過程で、現在地確認やコースを読み解くための実践学習と、堤先生による危急時の搬送方法習得である。宿舎からバスで五ヶ峠登山口に到着し10名程度の班に分かれると先生から全体講習を受けた。コンパスと地図の持ち方についてであるが、これは新鮮であった。
①コンパスは手から落ちないように手首からひもでつないでおく。②コンパスは利き手でないほうの親指と人差し指で円を作りその中に収める。地図は必要なところだけ見られるように折り畳み、コンパスの下において挟みこむ。これだととっさの時にも両手が使えてケガ防止にもなるというものだ。さて、班毎に研修が始まった。

１/12500に拡大された白地図で現在地の確認やコースの予想を班のリーダーが中心になって進めていった。時折り「なぜこの場所と言えるのか」と先生から質問されることもあったが参加者は全知全能をふりしぼって学習していた。後半は先頭を順次交替しながら、緊張感をもって地図と格闘していた。

昼食後、日本ロープレスキュー協会の堤信夫先生から危急時の対応についての講義を受けた。ザックを使った搬送法では従来ザックを空にしていたが、ここでは衣類等の柔らかいものをザックの底に詰め込んで膨らみを持たせた。それにより被救助者の姿勢が安定

ネットレスキュー講習

し、ずり落ちることなく双方が楽になることが確認された。次にストックを束ねたりする際に使用するテープであるが、今まではビニールテープ、ガムテープ、テーピングテープなど色々試してきたが、講師の紹介したものは濡れても何度も使用できるすぐれもののクイックテープであった。次にレスキューネットの使用法の講習があった。収納すると小型ツェルトくらいの大きさだが搬送には絶大な力を発揮する。担架などは持っていない我々でもこのネットがあれば事故者の負担を減らし安全なところに運びやすい。ネットなので持ち手をいくらでも増やせるので現場にいる人力を有効活用できると思う。搬送においてはスリングとカラビナを使用することになるが、顎のあるカラビナはネットが食い込んで使いづらい旨説明があった。

２日目の夜は懇親会がひらかれ、各地の地酒がふるまわれ、和やかなうちに時間が流れていた。

３日目は各グループ毎に別れて「道迷いを防ぐには！」をテーマに研究協議の時間である。

ポストイットを使いリーダーが意見を分類してまとめて、模造紙に書き、それぞれ協議内容を発表した。おおむね山行前と山行時の二つに分けられていた。山行前については計画書に無理はないか、トレーニングは十分か、コース中の課題はどこかなど、メンバーがその山行に十分な予備知識を持つことが重要だとされる発表が多かった。山行中については、常に現在地点を確認することと、おやっと思ったら確かなところに戻ることを再確認していたグループが多かった。また、ルートに確証が持てないときは、リーダーはプライドに捕らわれずメンバーとコミュニケーションを持つことが大切と、中高年登山者ならではの決意が込められた発表もあり、苦笑いの参加者も見受けられた。この発表を通して、道迷いを防ぐにはメンバーがリーダーに頼り切りにならず、常に地形図と実際の地形を

見比べる習慣を身につけることだと感じました。これにより道迷い遭難が少しでも減っていくことを期待します。

最後に、日本山岳協会の仙石富英常務理事から講評がありました。村越先生の講義については、読図力に加えて普段の心掛けが大切という事。休憩の時には現在地の確認、この先の危険個所の把握、目的地到着時刻予測など常に頭においておけという事だとして、安全登山を呼び掛けた。また、堤先生の講義に触れ救助活動などは短時間での理解は難しいので、日ごろの訓練が大切であることが仙石理事は説いていた。

（あとがき）

今回の講習会の主管をまかされて、私たち新潟県山岳協会は、宿舎と現場の兼ね合いから角田山を選択しました。他にも越後にはいい山が沢山あります。関東やアルプスと違って公共交通機関のアクセスは悪く、その山の多くは道標や山小屋などが整備されておりません。低い山になるほどそれは顕著です。また残雪の時期には部分的に登山道が雪の下になっています。こんな越後の山々は、思い通りのナビゲーションができるときっと楽しくてたまらないはずです。機会を見つけておいでいただきたいと思います。本講習会では関係各位ならびに会場のメイワサンピア様の格別なる取り計らいにより無事終えることができました。それにもまして、私共の山岳協会自体のスキルアップになったと感じますし、今後の活動にこの講習会で学んだ事を活かしていくことは私たちの使命であると認識しております。大変ありがとうございました。来年の静岡県での開催の成功を折念いたします。

（新潟県山岳協会理事長　楡井利幸）

JMA 平成28年度（28年10月）常務理事会報告

日　時　平成28年10月5日㈬
18時00分～20時45分
場　所　岸記念体育会館・101会議室
出席者　八木原会長、尾形・國松・亀山各副会長、小野寺、森下、京オ、瀧本、水島、中瀬、各常務理事、中畠監事
委　任：髙橋副会長、西内、仙石各常務理事

1．議　事

⑴平成28年度9月常務理事会議事録の承認について（事前送付済）
異議なく承認された。

⑵第一次補正予算編成方針（案）について
小野寺事務局長が資料に基づいて編成方針を提案した。収入増は協賛金やＪＯＣからの補助金になる。支出については競技強化関連、役員交通費等が増となる。
質疑応答の後、提案通り承認された。

⑶第3回理事会次第について
小野寺事務局長が資料に基づいて提案を行った。次の⑷と同時に行い、議案・報告について順番の変更、統一及び追加などの訂正があった。
質疑応答の後、次の臨時総会次第と一緒に審議され、その訂正を発送することで承認された。

⑷臨時総会次第について
上記⑶と同じ。

⑸パラクライミング競技会開催について
森下競技部長が資料に基づいて提案を行った。対象者に対して事前通知が必要であり、承認を得た後、再度詳細要項を提出したいとのこと。

⑹第66回日本スポーツ賞推薦について
小野寺事務局長より資料に基づいて説明があり、世界選手権ボルダリング金メダルの楢崎智亜選手を推薦する提案があった。選手強化委員会に諮ることで了承。

2．報告事項

⑴9月度（上期）会計報告について
小野寺事務局長より資料に基づいて報告があった。今年度から会計士に作成してもらうことになった。法人会計の半期決算で重要なのは補助金使途関係との説明を会計士から受けている。今期はまだ補助金を受け取っていないので該当しない。

⑵ＩＦＳＣ世界選手権、アジアユース大会結果報告
資料に基づいて森下競技部長より報告があった。アジアでは敵なしとのこと。

⑶国体山岳競技のヒヤリング報告と今後の取り組みについて
資料に基づいて森下競技部長より報告があった。比較的好意的に対応して頂いた。

⑷東京2020オリンピック競技大会国内競技団体協議会の委員推薦について
尾形副会長より資料に基づいて報告があった。ＮＦから選任される委員としては原則として専務理事の役職にあるものとする、という条項があり、尾形専務理事としたい。さらにＩＦと組織委員会とのパイプ役としてスポーツマネージャーという役職があり、小日向委員長を組織委員会に推薦したいとの報告があった。

⑸スポーツ立国の実現に向けて（日体協）
小野寺事務局長から資料に基づいて報告があった。内容は指導者の育成、社会的地位のアップとのこと。

⑹名称変更に対する意見書について
小野寺事務局長から資料に基づいて報告があった。現在のところ2名。

3．後援報告、協賛等の依頼について

⑴第3回関東小中学生選抜クライミング選手権大会
小野寺事務局長から資料に基づいて報告があった。異議なく承認された。

4．専門委員会動静

9月（9月6日～10月3日）

［報　告］

⑴ジュニア・普及 委員会
9月6日㈫　出席4名委任1名
ア）立山ジュニア登山教室2016の反省
イ）9月以降の行事について
●中高年安全登山指導者講習会東部地区（新潟　角田山9/23～25）について
●中高年安全登山指導者講習会西部地区（徳島　剣山10/8～10）について
●全日本登山大会（島根　三瓶山11/4～6）について
ウ）ジュニア・普及情報交換会（2/11　国立オリンピック記念青少年総合センター）について

⑵国際委員会
9月13日㈫　出席11名、委任2名
ア）報　告
・ロシア女性クライミングＦｅｓより記事の掲載されたロシアの雑誌2誌が送付されてきた。
・9/1山岳スキー小委員会（仮称）ミーティング（於 大町市）報告
イ）協　議
①第3回海外登山懇談会　11/17㈭ オリセン（セー304）19：00開会
19：05～19：50「私の海外の登山・山スキーの旅 ―山と仕事と―」 坂上光恵氏
19：55～20：40「子連れだからこそ海外へ！ 家族で楽しむアメリカクライミング」山岸尚将氏
②国内外に向けてのＨＰ案について
国内向け「海外からの案内」「海外登山地最新情報」「海外登山の手続きガイド」
外国向け「About Japanese Mountains」「Mountain Area Information」
③2017年6月総会兼海登研の会場について

⑶自然保護委員会
9月15日㈭　出席14名　委任1名
ア）平成28年8月度　自然保護常任委員会議事録について
イ）第40回自然保護委員総会の反省について
ウ）第5回関東地区自然保護交流会開催について
エ）ライチョウサミット（第17回ライチョウ会議）10月15日　大町市文化会館

⑷指導委員会
10月3日㈪　出席13名 委任2名
ア）夏山リーダー検討会（9/27）

テキスト目次作成。指導と遭対で分担する分野を決めた。
イ）ＳＣ指導者養成講習会
①茨城ＳＣ指導員　7／9～10、8/20～21
②宮崎ＳＣ上級　10/22～24
③近畿ブロックＳＣ指導員 10/25～26、10/29～30
④富山ＳＣ指導員 11/19～20、11/26～27
⑤ 北海道ＳＣ指導員 9／3～4、11/26～27
⑥中国ブロックＳＣ指導員養成講習会・中国ブロック合同開催について
日山協中央開催で実施する、主管は山口岳連、10/29－30、11/19－20の４日間
ウ）登攀技術研修会
● 10/1㈯－2㈰　長崎　メンバー　瀧本、蛭田、堤、切嶋、本郷、研修会（６名）堤、本郷
Ａ級主任検定員（５名）＋上級指導員（１名）瀧本、蛭田、切嶋
⑸遭対・指導合同委員会
神奈川山岳スポーツセンター
８月20日10時～21日12時　出席30名
ア）合同技術会議開催の経緯について
イ）懸垂下降のバックアップについて
ウ）制動確保の必要性と方法について
エ）ハーネスへの結索方法について
⑹遭難対策委員会　９月28日㈬　出席８名
ア）レスキュー講習会の反省について
●講習内容を見直してから10年立ち、新しい委員も増えたので講習内容の再確認が必要であり、来春の遭対常任研修で確認する。
イ）夏山リーダー資格に関して
●シラバスの体系は完成した。それにあわせテキストの章立てを作成した。
●テキストは来年４月に印刷し、検定の方法、システムの認証の方法、スケジュールなどを来年６月の指導や遭対の総会で説明、講習会は９月に実施予定。
ウ）指導・遭対合同研修会について
エ）雪崩の指導技術の統一について
● 10月17日に開催予定、西内が出席。
オ）積雪期レスキュー講習について
●募集人数はクラス１以外は定員より少し多くても大丈夫。
● 11月にホームページに要項を掲載し、12／１から申し込み受付する。
⑺共済委員会
９月13日㈫　出席７名
ア）トレラン保険について

５．その他の重要事項

９月９日～10月４日
⑴山岳レスキュー講習会　９月９日㈮～11日㈰　於：国立登山研修所　西内部長、町田副委員長、他
⑵ＩＦＳＣ世界選手権　９月14日㈬～18日㈰　於：パリ　小日向委員長
⑶日体協国体競技ヒアリング　９月15日㈭　於：岸記念体育会館２階日体協国体課　尾形副会長、森下部長他
⑷追加競技団体への説明会　９月20日㈫　於：新宿パークタワーオフィス11N－Ａ　尾形副会長、小野寺常務理事
⑸加須市大橋市長表敬来局　９月20日㈫　於：岸記念体育会館　八木原会長、尾形副会長、小野寺常務理事
⑹ネパール憲法制定１周年記念レセプション　９月20日㈫　於：ネパール大使公邸　八木原会長、小野寺常務理事
⑺ＩＦＳＣ アジアユース選手権　９月27日～10月１日㈰　於：イラン・テヘラン　小日向強化委員長
⑻中高年安全登山指導者講習会（東部）　９月23日㈮～25日㈰　於：新潟県角田山周辺　八木原会長、仙石常務理事
⑼ＪＯＣコーチ会議　９月28日㈬　於：東京ドームホテルＢ１天空Ｂ　有枝、水村、木村コーチ
⑽一般財団法人日本トレイルランニング協会設立祝賀会　10月１日㈯　於：スクワール麹町　尾形副会長
⑾登攀技術に関する指導者の教育と研修　10月１日㈯～２日㈰　於：長崎県大村市　瀧本指導委員長
⑿公認会計士と上期決算処理の打ち合わせ　10月４日㈫　於：岸記念体育会館　尾形副会長、小野寺常務理事、相良財政担当理事
⒀契約審査会（博報堂から提案があった契約の審査）　10月４日㈫　於：岸記念体育会館　尾形副会長、森下、小野寺の各常務理事、相良財政担当理事、小日向委員長

寄贈図書

寄贈本	(株)山と溪谷社	「新編 山小屋主人の炉端話」工藤 隆雄 著
雑誌	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.833
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.979
会報	(公社)日本山岳会 自然保護委員会	「木の目草の芽」第124号
	スポーツこころのプロジェクト運営本部	「スポーツこころのプロジェクト新聞」第13号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第436号
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.462
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・体協フェアプレイニュース」2106年9月26日号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第592号
	横浜山岳会	「山」1012号
	mountainkorea.com	「Man&mountain」2016 JULY No.324
	(公財)全日本ボウリング協会	「BJCnews」第539号
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne360」2016.10
	トータル・オリンピック・レディス会	「TOLだより」2016年第31号
	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.478
	(公社)国土緑化推進機構	「ぐりーんもあ」Vol.75
	埼玉県山岳連盟	「埼玉岳連」第55号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」№324
	東京都山岳連盟	「都岳連通信」2016年３号
	中華民国健行登山會	「中華登山」178 2016.10
	岡山県山岳連盟	「岡山岳連」215号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」№501 2016.11
	Korea Alpine Federation	「大山聯」2016 October
	(公財)尾瀬保護財団	「はるかな尾瀬」Vol.31
	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」№10
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース」「体協フェアプレイニュース」2016年10月17日号
	NPOヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「HAT-J NEWS」№103
	(公社)日本山岳会	「山」№857
	やまびこ山想会	「やまびこ」第167号
	東京野歩路会	「山嶺」No.1040
	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	「2020たより」Vol. 02
	おいらく山岳会	「山行手帖」№683
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第420号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第437号
	飯豊連峰保全連絡会	「飯豊連峰保全連絡会ニュースレター」第28号
	中華民国山岳協會	「中華山岳」双月刊 255
	ＦＥＣＣ	「VERTEX」268

編集後記

女性で初めて世界最高峰エベレストに登頂し、その後７大陸最高峰を制覇した登山家の田部井淳子さんが10月20日病気で他界しました。個人的な交流はなく３～４年前富士山吉田口ルートで挨拶を交わした程度ですが、その時は元気そうで闘病中とは知りませんでした。女性登山の躍進に一時代を築いた人。　合掌

（広報担当 水島彰治）

登山月報　第572号
定　価　110円（送料別）
予約年間　1,300円（送料共）
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月１回15日発行）
発行日　平成28年11月15日
発行者　東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電　話　03－3481－2396
ＦＡＸ　03－3481－2395

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ヶ岳山荘　TEL:090-2252-3203（衛星電話）
神の川ヒュッテ　TEL:042-787-2276
和田峠「峠の茶屋」　TEL:042-687-2882
理事長・代表　杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
◦北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
◦陣馬山トレイルレース実行委員会
◦八重山トレイルレース実行委員会
◦東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
◦上野原秋山トレイルレース実行委員会
◦南高尾城山陣馬サンセットトレイルレース実行委員会
◦峰山トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭

山岳雑誌 岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人（がくじん）」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、"岳（たけ）"を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすめです。

期間割引 **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に届けます。

通常本体価格12冊
8,160円(税込)
(税込8,812円)
→
年間購読12冊
7,480円(税込)
(税込8,078円)
14冊で680円
1冊分無料

年間購読特典
岳人オリジナル
コンパクトフォームパッド

使用サイズ
35×26×0.8cm

12月号
11/15発売

「岳人」2016年12月号
【特集】街道、峠を歩く
【新特別企画】石川直樹「アジアの山に生きる」／竹田津実「オホーツクの村物語」／とっておきの山歩き／[illegible]

単品販売680円(税込)
※モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアでも取扱中！

年間購読お申し込み方法
●ウェブサイトで
http://www.gakujin.jp
●お電話で（受付後に郵送用紙をお送りします）
0120-982-552／TEL 06-6538-5797
※フリーコールが使えない場合・携帯からはご利用いただけません。
●全国のモンベルストアで
http://store.montbell.jp

JMA
守ります。美しい日本の山。

祝

国民の祝日

山の日

8月11日

（2016年より）

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

http://sangakukyousai.com

〒170−0013　東京都豊島区東池袋3−7−11−707
TEL:03-5958-3396　FAX:03-5958-3397
E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
月〜金　10:00〜17:00（祝日除く）

Webからも申込めます